

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 長野県上高井郡高山村立高山小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 382 - 0831

E-mail tomosodachi@takayama-syo.ed.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 191 名 女子 175 名 合計 366 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「地域に根ざした体験を通した学びの定着」を活動テーマとして、「ESD を持続可能な社会の担い手を育成する教育」と捉え、ESD の実践を通して、問題解決能力、創造的なコミュニケーション能力、健康や体力の育成を目標とした。高山小学校のユネスコスクールの活動は、①学校・PTA・公民館が共催する親子体験ふれあい講座「わくわく村」 ②生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に学ぶふるさと学習 ③学校支援ボランティアを 3 本の矢として考え取り組んでいます。

① 公民館が力を合わせた「わくわく村」講座の取組みの一部

親子ふれあい体験講座である「わくわく村」は本年度も中身をリニューアルして計 20 講座開設した。親子のふれあいだけでなく、地域の人々との交流・自然環境のすばらしさに触れたり、歴史や文化といった風土にも学んだりして、その魅力を肌で感じる事ができた。

6 月 17 日 (土) コカリナ教室 参加人数 11 名

「伐採された木から作られたコカリナの作製と演奏」

6 月 24 日 (土) ちっぴっこ消防士を体験しよう 参加人数 18 名

「放水の体験やはしご車に乗ろう」

6月30日（金）他1回 ホタル学習教室 参加人数 36 名
「ホタルの観察と生息地の整備のお手伝い」

7月15日（土）他1回 綿作りとラベンダーの匂い袋教室 参加人数 32 名
「綿の成長を観察しよう。ラベンダーで匂い袋を作ろう」

7月29日（土） サバメシとウォーキング教室
参加人数 43 名
「地域の山を散策しながらサバイバル御飯を作り」

7月22日（土） ヘルシーライフ教室 参加人数 6 名
「健康な食生活講座」

8月19日（土） 大田堰へ行ってみよう 参加人数 8 名
「大田堰へ行って歴史を学ぼう」

8月27日（土） 古道を歩こう 参加人数 17 名
「高山村の古道を歩く」

9月 9日（土） 湯倉洞窟へ行ってみよう 参加人数 29 名
「縄文人が住んでいたという湯倉洞窟と太田堰へ行って歴史学習」

9月23日（土）他1回 布ぞうり作り体験教室 参加人数 5 名
「エコを学びながら健康に良い布ぞうりを作ろう」

10月21日（土） 草木染教室 参加人数 29 名
「地域のワインブドウの絞った皮を使ったコースター作り」

1月11日（木） 冬の星空観察教室 参加人数 27 名 〈 国際ダークスカイ協会に報告 〉
「観察シートを使って、天の川のオリオン座周辺の星の見え方を観察」



② 生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に学ぶ体験学習

生活科・総合的な学習の時間の活動では、地域に学ぶ学習(1)地域の歴史や文化・自然(2)地域の産業を盛り上げ、工夫し生き残ろうと努力している人々の姿や生き方(3)地域の魅力や人々の絆、を取り入れている。情報を収集・整理・分析し分かりやすくまとめて発信するなどを重視している。特に11月の発表会では、友だち、保護者など地域に発信する機会をもっている。

1年生 「秋探しに 行こう！」

高山村の観光施設であるYOU游ランドの公園施設でドングリ拾いや落ち葉拾いをし、生活科でドングリを使った学習を行った。

2年生 「前田牧場へ行こう」「大豆ってすごい」

高山村の観光施設でも販売されているびっくりするほど美味しい「牛乳」。学校給食にも地域の牛乳が出されている。その牛乳を生産している前田牧場に行き、牛を見学したり牛乳になるまでの話をきいたりして、生産者の方の思いに触れた。

大豆を育て、収穫の喜びを共有する。また、きな粉や味噌造り体験で大豆の魅力に触れる。



3年生 「りんご収穫体験」「ホタルのとびかう村にしよう」

高山村の特産品のりんご「ふじ」の木を借りて、1年間を通して美味しいりんごを作るには、どうしたら良いのかを学習してきた。児童たちは、農薬の問題やネットなどを使って鳥から守る方法、色づきや味を良くするための工夫などについて体験を通して学んでいった。

ホタルのえさのカワニナを養殖する事やホタルの幼虫を放流する活動を通して、むらのホタルと関わった。

4年生 「ワインぶどう収穫体験」

高山村は食性ぶどうの特産地であるが、近年、ワインぶどうは全国でも指折りの品質を誇るといわれるようになった。そのワインぶどうの栽培の様子を見学したり、収穫体験をしたりして郷土に対する理解を深めた。

5年 「米作り体験」

地域の方に田んぼを借りて、日本人の生活に古代より根づいてきた米作りを実際に体験する中で、米作りの苦勞に触れたり、日本の食料生産の問題を考えたりしすることができた。

6年生 「地域の魅力を発信しよう。」

地域の観光資源である桜、滝、温泉など様々な魅力を調べ、ツアーコンダクターになったつもりで発信する学習を深めた。

地域の民話を語る会の方との交流を通して、地域の歴史の一端を英語民話で学んだ。

11月11日（土）「しらかば学習発表会」

「しらかば学習発表会」を実施し、クラス毎、主に総合的な学習の時間に取り組んできた学習について、保護者・地域の方を招いて発表会を行った。体育館での全体発表と各教室を使ったクラス発表に分かれている。

多くのクラスが、地域に目を向け、その特徴や魅力を知り、地域の環境や地域の未来、自分たちの果たす役割について考えることができた。



③ 学校支援ボランティアの方の活用

子ども達が村の大人と関わることで、村との絆を強めたり感謝の気持ちを高めたりする事が出来た。

〈今年行われた主なボランティア活動〉

リース作り（1年） カラスノエンドウの笛吹き遊び（1年）

大豆の学習（2年） 清掃支援（2年）

ホタル学習（3年・4年） 調理実習（5, 6年）

書写指導（3, 4, 5, 6年）

読み聞かせ（全学年） 等



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 休日や平日の夜)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ・学校のグランドデザインの中にESDを明確に位置づけている。
- ・総合的な学習の時間ではESDを中核にすえ、教科横断的な関連性を意識して、学校全体で取り組んでいる。
- ・ESDカレンダーを作成している。さらに、総合的な学習の時間指導計画と合わせて、ESDカレンダーを毎年改訂し、PDCAサイクルを確立している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・ESDカレンダーを充実させたことで、組織的かつ継続的に活動に取り組める体制につながっている。
- ・ESDを意図した生活科の研究チームを結成し、全校授業研究会を行った。
- ・地域研修を行い、職員自身が地域の魅力について知るよう努めた。
- ・県外のESDの先進校の実践について学んだ。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・高山村共育コミュニティースクール運営委員会にて、学校自己評価と合わせて、ユネスコスクールとしての取り組みについても評価してもらっている。
- 成果「高山村は学習に値する地域素材がたくさんあってよい。今までの活動をベースにして、地域・保護者も参加して、これからもふるさと学習を続けてほしい。」
- 課題「英語なども入って来て忙しくなるが、体験や交流の時数もしっかり確保して欲しい。」

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・毎年 11 月の第 2 土曜日(本年度は 11 月 11 日)に「しらかば学習発表会」と題して、各クラスで総合的な学習の時間や ESD で取り組んできた学びの成果について、模造紙にまとめたり、プレゼンソフトを使ったりして発表し、地域に発信している。
得られた効果「地域の事をより良く知ること、自分達の住む高山が好きになる子が多い。」「毎年、多くの人に聞いてもらうことで、学年を追う毎に発表する力が向上してきている。」

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・2 月 3 日に信州大学教育学部で行われた信州 ESD コンソーシアムに、3 年生が参加し、実践発表を行った。他の小学校や中学校、高校の素晴らしい実践発表に触れることもでき交流を深めることができた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

・となりの高山中学校の ESD の成果発表の場である「中学生議会」を 6 年生が参観し、先輩たちのすばらしい実践や学びに触れている。
・近隣のユネスコスクールとは、上記の信州 ESD コンソーシアムでネットワークを形成し、交流を続けている。国外のユネスコスクールとは交流は、あまり進んでいない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

・高山小学校のユネスコスクールの活動で特筆すべきことは、「ふるさと学習」である。地域の産業・歴史・文化の魅力を知り、そこに生きて努力・工夫を重ねる村民の生き方やプライドに触れることで、持続可能な地域社会を担う力の基盤を培っている。児童が様々な活動を通して、地域の大人とかかわっていくことで、地域の魅力を知り、地域の人と積極的に関わり挨拶をする姿などが見られるようになっている。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

・各学年、今年度、作成したESDカレンダーに従って、総合的な学習の時間を中核にしてESDの実践を積み重ねていく。
・「わくわく村」の活動については、6月～11月の平日の夕方や土曜日を中心に今年も20講座を予定している。全児童、またその保護者が1講座以上を選んで参加する予定。
・各クラスの総合的な学習の時間の学びとESDの実践、さらに「わくわく村」の取り組みについては、11月10日（土）の午前に地域に向けて発表発信していく予定。
・1月には、高山村共育コミュニティースクール運営委員会にて、学校自己評価と合わせて、ユネスコスクールとしての取り組みについても評価していただく。
・各学年、本年度の取り組みを振り返り、ESDカレンダーをさらに手直しをし、次年度につなげていく。